どこまでできたの？ 交流館

歴史と未来の交流館整備通信 vol.7

「東海村の歴史や文化の発信拠点」「子どもたちの体験や遊びを通した活動拠点」として幅広い世代が交流し郷土愛を育み、にぎわいをつくる生涯学習の拠点施設となる「(仮称)歴史と未来の交流館」。今回は、展示室１の内容と交流館の竣工等についてお知らせします。

【問い合わせ】生涯学習課(仮称)歴史と未来の交流館整備推進室(☎282-1711 内線1424)

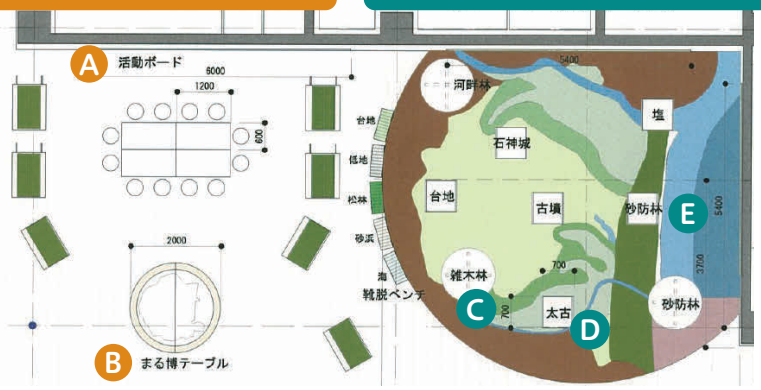
展示制作 ～展示室１にズームイン！～

展示室１は、「体験・体感エリア」と「水辺のムラ「東海村」の風土」の２つのエリアに分かれています。明るく開放的な空間で、東海村の地勢や風土を楽しく学べる展示室を目指し、開館に向けて準備を進めます。

土器や勾玉(まがたま)などのものづくりや、ワークショップなどの体験活動ができるエリアです。さまざまな活動を行うためのマルシェワゴンやテーブル、いすを設置します。

豊かな自然環境の上で成り立つ東海村の風土を学べるエリアです。東海村の風土をさまざまなアイテムで表現します。

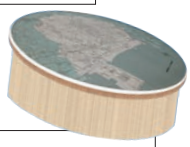
体験・体感エリア　**水辺のムラ「東海村」の風土**



A 活動ボード

縦約２ｍ×横約６ｍのボードです。ワークショップで作った作品を貼る、ホワイトボードとして使用するなど、使い方はさまざま。

B まる博テーブル



直径約２ｍの円形のテーブルです。1905(明治38)年から現在までの東海村の地図等を見ることができます。

C 東海村の環境を表現する擬木

久慈川の河畔林や、台地上の雑木林、海岸の砂防林を、床地図の上に擬木で表現します。春夏秋冬でこの擬木に変化が起きるような展示アイテムを作成中です。

D 歴史ＢＯＸ

中をのぞくと東海村の歴史や自然についての解説が見られる箱です。種類は全部で６つ。どんな形になるのかは、開館してからのお楽しみ。

E 床地図

カーペットやクッションで作る地図です。上に乗ると東海村の地形や自然環境を見渡すことができます。

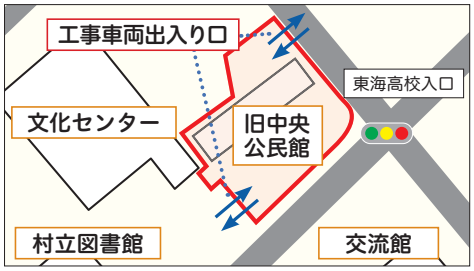
交流館が竣工を迎えました

※準備等のため、敷地内への立ち入りはできません。

着工から約１年半となる令和２年12月25日、ついに「(仮称)歴史と未来の交流館」が竣工を迎えました。

今月からは、文化財および事務機能の移転作業や展示制作物の設置、暫定駐車場の整備等、７月の開館に向けての準備を進めます。皆さんにご利用いただけるのは半年ほど先になりますが、特徴的な屋根の交流館外観や東屋(あずまや)などを外から眺めていただきながら、どんな展示がされるのか、どんな活動ができるのか、ぜひ想像を膨らませて楽しみにお待ちください。

旧中央公民館を解体します



▲ ── 仮囲い範囲図

２月から６月末にかけて、旧中央公民館の解体工事を行います。「(仮称)歴史と未来の交流館」の開館時には、文教地区の暫定駐車場として利用できるようになります。近隣にお住まいの方や周辺施設をご利用の方には、工事期間中ご迷惑をお掛けしますが、通行者の安全に配慮し進めますので、ご理解とご協力をお願いします。

【旧中央公民館解体および交流館開館までのスケジュール】

	R２	R３						
	12	1	2	3	4	5	6	7
旧中央公民館	交流館へ文化財移転		●解体工事着工		建物解体			●完了
	近隣建物調査		準備工			暫定駐車場整備		
交流館	●竣工		展示制作物設置		●行政事務先行開始			●開館
			備品納入			開館準備		
				事務機能移転※				

※生涯学習課(役場行政棟４階)、青少年センターが対象となります。

「(仮称)歴史と未来の交流館」に展示する文化財にも活用！「文化財保護活用基金」を設置

村では、新たに「東海村文化財保護活用基金」を設置しました。これは、村内在住の方からの寄付をきっかけに創設されたものです。

〝村内遺跡から出土した土器や埴輪(はにわ)の修繕、また村にゆかりのある文化財の取得など、交流館のために活用してほしい〟という寄付者の思いをしっかりと受け継いでいきます。

基金の設置に当たっては、平成元年に設置した「東海村芸術振興基金」と統合し、村民の皆さんに村の歴史をより身近に感じてもらえるよう、継続的・計画的に文化財の修復や取得に向けて取り組んでいきます。

【問い合わせ】生涯学習課文化・スポーツ推進担当
(☎282-1711 内線1421)